

免疫反応

リウマチ因子 (RF)

リウマチ因子 (RF) とは免疫グロブリンの IgG に対する自己抗体です。関節リウマチ患者のおよそ 8 割の人が高値を示します。抗体とは、細菌やウイルスなどを異物として排除しようとして生成される蛋白で、生体防御に重要な役割をしています。自己抗体とは免疫機能の異常により自己の細胞や組織を異物と認識し抗体を生成し自身を攻撃してしまうものです。

基準値： 20 IU/ml 以下

高値を示す場合考えられる疾患
<ul style="list-style-type: none">・関節リウマチ・膠原病 (SLE、強皮症、多発性筋炎など)・肝疾患 (慢性肝炎、肝硬変など)・その他 (マクログロブリン血症、慢性感染症など)

CRP

CRP (C 反応性蛋白) とは、炎症や組織細胞の破壊が起こると血清中に増加する蛋白質のことです。体内に炎症反応が起こると発症から 24 時間以内急速に増加し、ピーク後は減少していきます。(2~3 日後) この CRP の血中量を測定することで炎症の重症度を測定します。検査前の激しい運動でも高値を示すことがあります。

基準値： 0.14 mg/dl 以下

高値を示す場合考えられる疾患
<ul style="list-style-type: none">・ウイルス性感染症・細菌性感染症・悪性腫瘍・心筋梗塞・膠原病・外傷、熱傷